

## 平成28年度施策評価調書

整理番号	27
評価担当課	教育部生涯学習課
職・氏名	

### 1 施策の名称等

施策名(基本事業)	生涯学習プログラムの整備と学習への支援(5-1-3)		
総合計画の位置づけ	基本目標	5	心豊かな人と文化を育むまちづくり
	主要施策	1	生涯学習社会の形成

### 2 施策の現状分析と意図

施策の対象、意図(誰、何をどのようにしたいのか)	心豊かな人間性とスポーツ・文化を誇るまちづくりを目指し、生涯のそれぞれの時期に豊かな学習活動ができるように生涯学習プログラムの整備を進め、市民の生涯学習に対する多様な要求に応える。
施策の現状(現状どのような手段を講じているか)	市民講座や家庭教育支援講座等をつうじて、市民の生涯学習の機会や地域課題への関心を高める取組を行っている。また、各地域においては分館が自主的な活動を行っている。
施策の課題	まちづくりを意識した講座を増やしつつあるが、文化や趣味に関する講座が中心となっている現状もあり、さらにまちづくりに資する取組が必要と考えている。

### 3 成果指標の達成状況

成果指標	指標の説明	区分	H25	H26	H27	目標年度(28年度)
名寄市公民館本館 市民講座の参加人数	参加者延べ数	目標値	610	621	707	800
		実績値	610	621	707	
		進捗率	100%	100%	100%	
名寄市公民館分館事業参加数	参加者延べ数	目標値	500	450	550	500
		実績値	511	486	594	
		進捗率	102%	108%	108%	
風連公民館本館 公民館講座の参加人数	参加者延べ数	目標値	69	65	93	110
		実績値	63	81	108	
		進捗率	91%	125%	116%	
智恵文公民館本館 講座参加人数	参加者延べ数	目標値	490	495	545	545
		実績値	392	403	387	
		進捗率	80%	81%	71%	
		目標値				
		実績値				
		進捗率				

### 4 施策の達成状況

施策の達成度	理由・問題点等	評価基準
B	高齢者学級、公民館活動ともに地域の独自性を発揮し、生涯学習機会の推進が図られている。市民講座では、趣味の講座にとどまらず、地域課題への対応やジュニアオーケストラの立ち上げなど、まちづくりを意識した事業展開にも取り組んでいる。一方で、地域の人口減少や高齢化などにより分館活動等への参加数が減少しており、総合的には概ね順調と考える。	A: 計画目標に向けて順調に推移 B: 計画目標に向かって概ね順調 C: 計画目標に向けて進捗はやや遅れている D: 計画目標に向け進捗は遅れている

5 今後の方向性

生涯学習機会の提供や、市民によるまちづくりの推進のため、継続した取り組みを行う。EN-RAYホールなど新たなハードを活用した講座の実施や発表機会の創出など、時代に即した事業展開を図る。

6 ワーキンググループの意見等

1次評価のとおり

7 外部評価の意見等

1次評価のとおり

8 2次評価の意見等

1次評価のとおり

9 施策を構成する事務事業

(1)H27年度実施事業

事業番号	事務事業名	事業の概要	H27決算額	1次評価						外部評価	2次評価
				妥当性	有効性	効率性	公平性	達成度	評価		
1	ピヤシリ大学運営事業	60歳以上を対象とした高齢者学級	487	a	a	a	a	b	A	A	A
2	風連瑞生大学	60歳以上を対象とした高齢者学級	346	a	a	a	b	a	A	A	A
3	高齢者学級(友朋学級)運営事業	65歳以上を対象とした高齢者学級	42	b	a	a	a	b	A	A	A
4	公民館運営事業(名寄)	名寄市公民館における本館及び分館事業	731	a	b	a	a	a	A	A	A
5	風連公民館活動の推進	風連公民館における本館及び分館事業	1,309	b	b	a	b	b	A	A	A
6	智恵文公民館運営事業	智恵文公民館における本館及び分館事業	490	b	a	a	b	a	A	A	A

(2)その他の取組(既に終了した事業や予算を伴わない取組等(1)以外の取組を記入してください。)

--

平成28年度事務事業評価調書

整理番号	27	枝番	1
評価担当課・係・職名・氏名	生涯学習課生涯学習係		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	ピヤシリ大学運営事業			
総合計画の位置づけ	有 無	基本目標	5	心豊かな人と文化を育むまちづくり
		主要施策	1	生涯学習社会の形成
		基本事業	3	生涯学習プログラムの整備と学習への支援
		実施計画事業	2	学習相談の支援(生涯学習コーディネーター)

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	高齢者が自己の能力を開発し、変容する現代社会に対応し、充実した生活を送るために、長期的に幅広く学習し生きがいのある人生感の確立を図るとともに、地域のボランティアリーダーを養成するため、高齢者学級を開設する。			
対象(何を又は誰を)	名寄市に居住する60歳以上男女で、名寄市老人クラブの推薦及び一般公募によるもの。			
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	学習内容は、講義、討議、実技、演習を主とする集合学習とする。			
意図(どのような成果を期待しているか)	長期的に幅広く学習し生きがいのある人生観の確立を図るとともに、地域のボランティアリーダーを育成する。			
事業実施主体	名寄市			
事業実施方法	直営	一部委託	全部委託	補助等 請負 その他( )
事業実施期間	始期	18年度	終期設定	有(終期年度) 無
根拠法令・条例等				

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H25	H26	H27	H28見込	目標年度 (28年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 学習課程	回	目標	22	22	22	22	22
			実績	22	22	22	22	
	2 公開講座	回	目標	5	5	5	5	5
			実績	5	5	5	5	
	3		目標					
			実績					
成果指標	1 学生数	人	目標	120	120	120	120	120
			実績	63	61	50	50	
	2		目標					
			実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H25決算	H26決算	H27決算	H28予算	平成27年度の事業費内訳
事業費	444	501	487	519	報酬 36千円
国道支出金					報償費 307千円
地方債					旅費 64千円
その他					需用費 80千円
一般財源	444	501	487	519	使用料及び賃借料 0千円
人件費	668	663	649	624	
平均給与額	6,683	6,629	6,490	6,244	
担当職員数	0.10	0.10	0.10	0.10	
総事業費	1,112	1,164	1,136	1,143	
対前年比(%)	—	105	98	101	コストの算出方法
事業コスト	活動指標1	20	23	24	総事業費/学習過程数
	活動指標2	89	101	98	総事業費/公開講座数
	活動指標3				

※H27及びH28年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	
改善点	指摘事項 ( )

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	高齢者が自己の能力を開発し、現代社会に対応し充実した生活を送るために必要である。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	定期的な学習や交流を行っており有効である。学習内容の見直しを適宜行い、さらなる充実を目指す。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	高齢者の能力向上、発揮の場として成果は大きく、自治会費等、本人からの費用徴収を行いながら必要最小限の経費で事業を運営している。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	a	学習内容において、学生から実費徴収しており、それぞれの負担に差はなく適正である。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	b	目標の達成に向け、年間の学習内容カリキュラムを構築し、順調に事業の展開が図られている。一方で、定員に対する入学者数の確保には至っておらず、さらなる魅力の拡大が必要。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	高齢者が自己の能力を開発し、現代社会に対応し充実した生活を送るため、多様な学習内容のカリキュラムを組み実施している。また、公開講座は、学生のみならず、市民誰でも参加できる講座を開催している。学生数の確保について急激な改善は困難だが、継続して魅力あるカリキュラムの構築やPRを行う。	
A:現状のまま継続	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	
B:進め方を改善		
C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)		

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり

平成28年度事務事業評価調書

整理番号	27	枝番	2
評価担当課・係・職名・氏名	教育部 風連生涯学習担当		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	風連瑞生大学運営事業			
総合計画の位置づけ	有	基本目標	5	心豊かな人と文化を育むまちづくり(教育・文化・スポーツ)
	無	主要施策	1	生涯学習社会の形成
		基本事業	3	生涯学習プログラムの整備と学習への支援
		実施計画事業	2	学習相談の支援(生涯学習コーディネーター)

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	生涯学習に取り組む高齢者への組織化と学習意欲の向上を助長する			
対象(何を又は誰を)	60歳以上の学ぶ意欲のある高齢者			
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	学びのカリキュラムの作成と学ぶ意欲の助長			
意図(どのような成果を期待しているか)	積極的な社会参加や学習への取組。仲間づくり。異世代間交流。			
事業実施主体	名寄市			
事業実施方法	直営	一部委託	全部委託	補助等 請負 その他( )
事業実施期間	始期	1972年度	終期設定	有(終期年度) 無
根拠法令・条例等				

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

活動指標	指標名及び内容	単位		H25	H26	H27	H28見込	目標年度 (年度)
				目標	実績	目標	実績	
活動指標	1 事業数	件	目標	33	33	33	33	
			実績	33	33	33		
	2	目標						
		実績						
	3	目標						
		実績						
成果指標	1 在籍者数	人	目標	116	104	101	96	
			実績	62.17	57.35	59.58		
	2 実出席者数	目標						
		実績						

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H25決算	H26決算	H27決算	H28予算	平成27年度の事業費内訳	
事業費	345	341	346	348	旅費 76千円 負担金補助及び交付金 270千円	
国道支出金						
地方債				200		
その他						
一般財源	345	341	346	148		
人件費	2,005	1,989	1,947	1,873		
平均給与額	6,683	6,629	6,490	6,244		
担当職員数	0.30	0.30	0.30	0.30		
総事業費	2,350	2,330	2,293	2,221		
対前年比(%)	—	99	98	97	コストの算出方法	
事業コスト	活動指標1	67	67	66	63	総事業費/学習過程数
	活動指標2					
	活動指標3					

※H27及びH28年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	年々入学者が減少している。
改善点	指摘事項 ( ) 時代のニーズに沿ったタイムリーな講習会などの開催で生涯学習に努める。また、学生のニーズに沿ったクラブ活動の設置で学習意欲の向上を促した。

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	総合計画で想定される計画事業で取り上げられている事業であり高齢者の社会参加が見込まれる
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	高齢者に対する社会参画や学習機会の提供、仲間づくり、異世代間交流、生きがいづくり等有効な手段と思われる。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	補助金額等は在校生割を考えると高額でない事と個人負担で実費経費を負担していることから負担軽減の観点からも現状維持希望する。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	b	公民館まで通うことは元気な高齢者が対象となりがちになる。後継者がなく現役で仕事をしている者にとっては繁忙期の出席がかなわないこともある。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	a	在校生の学習動向を踏まえた年間カリキュラムを計画し、年度計画は概ね平均した出席者のもと遂行されている。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	終身課程の研究生の学年を設けていることから、出席者の健康状態の把握など気を使い、高齢者のひきこもり防止や仲間づくり、生きがいづくり、健康増進を促している。	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり

平成28年度事務事業評価調書

整理番号	27	枝番	3
評価担当課・係・職名・氏名	智恵文公民館		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	高齢者学級(友朋学級)運営事業			
総合計画の位置づけ	有 ・ 無	基本目標	5	心豊かな人と文化を育むまちづくり
		主要施策	1	生涯学習社会の形成
		基本事業	3	生涯学習プログラムの整備と学習意欲への支援
		実施計画事業	2	学習相談の支援(生涯学習コーディネーター)

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	地域に長く住み、充実した人生を送ることができるよう学習機会と交流の場の提供を行う			
対象(何を又は誰を)	65歳以上の智恵文地域住民			
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	教養講座や小中学校の児童、生徒等とのふれあい事業など、学ぶ意欲や興味に応えるプログラムを提供する			
意図(どのような成果を期待しているか)	地域の高齢者が事業を通して学ぶ喜びを感じ、また仲間作りによる孤立化を防ぐなど、心豊かな時間の提供と健康維持や向上を図る。			
事業実施主体	名寄市			
事業実施方法	<input checked="" type="radio"/> 直営	<input type="radio"/> 一部委託	<input type="radio"/> 全部委託	<input type="radio"/> 補助等 <input type="radio"/> 請負 <input type="radio"/> その他( )
事業実施期間	<input type="radio"/> 始期	<input type="radio"/> 年度	<input type="radio"/> 終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有(終期 年度) <input type="radio"/> 無
根拠法令・条例等				

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H25	H26	H27	H28見込	目標年度 (年度)
				活動指標	1	事業及び支援計画の件数	件	目標 25
		実際に実施した事業件数(受講者数)		実績 21	21	20		
	2			目標				
				実績				
	3			目標				
				実績				
成果指標	1	事業及び支援件数	件	目標 400	400	400	350	350
		事業及び支援実績(受講延べ人数)		実績 367	330	298		
	2			目標				
				実績				

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H25決算	H26決算	H27決算	H28予算	平成27年度の事業費内訳
事業費	44	54	42	125	閉講式記念品 21千円 通信費 5千円 消耗品 16千円
国道支出金					
地方債					
その他					
一般財源	44	54	67	125	
人件費	2,005	1,989	1,947	1,873	
平均給与額	6,683	6,629	6,490	6,244	
担当職員数	0.30	0.30	0.30	0.30	
総事業費	2,049	2,043	1,989	1,998	
対前年比(%)	—	100	97	100	コストの算出方法
事業コスト					
活動指標1	1,113	1,115	1,080		
活動指標2					
活動指標3					

※H27及びH28年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	智恵文地区は農村地域ということもあり、長く農業に従事している方が多いことなど、新規での受講者がここ数年加入しておらず、むしろ減少している状況である。受講生の高齢化により、体調や体力など活動内容に配慮が必要となっている。
改善点	指摘事項 ( )  受講者が減少しているため、老人クラブの総会で受講者募集のPRを行った。

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性		
市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	b	本事業は総合計画登載事業である。農村地域という地域性を考慮した実施日程、事業を計画し概ね達成はしているが、企画内容等ニーズの把握と内容の検討が必要である。
有効性		
目的を達成するための方法として有効か？	a	高齢者の学習機会の提供や仲間づくり、多世代交流事業などから、生き甲斐づくりと健康の向上が図られている。
効率性		
経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	予算規模が大きくないこともあり、これ以上のコスト削減をすることにより、事業の遂行や目的を果たす上で支障をきたすことが考えられる。
公平性		
受益者負担は適正か、受益者に偏りがはないか？	a	事業実施においては、広報ちえぶんで全戸に募集案内を行っている。
達成度		
活動指標、成果指標の達成度は？	b	農村地域であることから、人口減少や高齢化の影響もあり、新規での受講者が加入していない状況もあるが、年度計画は概ね遂行されている。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	人口減少や高齢化により受講生は減少しているが、事業内容は受講生の希望を聞きながら進めており、今後も身体的な配慮をしながら、生き甲斐作り、健康増進事業として実施する。	
A:現状のまま継続	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	
B:進め方を改善		
C:規模・内容を見直し		
D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	広報ちえぶんの他、新規加入を促進するためのPRを行う。	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり



平成28年度事務事業評価調査

整理番号	27	枝番	4
評価担当課・係・職名・氏名	生涯学習課生涯学習係		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	名寄市公民館運営事業			
総合計画の位置づけ	有	基本目標	5	心豊かな人と文化を育むまちづくり
	無	主要施策	1	生涯学習社会の形成
		基本事業	3	生涯学習プログラムの整備と学習への支援
		実施計画事業	3	公民館活動の推進

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する。			
対象(何を又は誰を)	名寄地区を中心とする住民			
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	本館においては市民講座等を開催しており、分館においては、討論会、講習会、実習会、展示会、体育、レクリエーション等を自主的に開催している。			
意図(どのような成果を期待しているか)	生涯学習機会や交流機会の提供により、市民の人生の質の向上とともに、市全体の文化向上を期待している。			
事業実施主体	名寄市			
事業実施方法	直営	一部委託	全部委託	補助等 請負 その他( )
事業実施期間	始期	18年度	終期設定	有(終期 年度) 無
根拠法令・条例等				

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H25	H26	H27	H28見込	目標年度 (年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 市民講座数	回	目標	9	8	10	9	9
			実績	9	8	10	8	
	2 事業回数(6分館)	回	目標	32	37	36	35	35
			実績	37	35	39	35	
	3		目標					
			実績					
成果指標	1 市民講座の参加人数(延べ数)	人	目標	610	621	707	800	800
			実績	610	621	707	800	
	2 事業参加数(6分館)	人	目標	500	450	550	500	500
			実績	511	486	594	530	

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H25決算	H26決算	H27決算	H28予算	平成27年度の事業費内訳	
事業費	750	639	731	912	市民講座	337,211円
国道支出金					家庭教育支援講座	10,000円
地方債					分館報酬	
その他					分館長	86,400円
一般財源	750	639	731	912	分館主事	54,000円
人件費	1,337	1,326	1,298	1,249	公民館分館事業交付金	242,206円
平均給与額	6,683	6,629	6,490	6,244		
担当職員数	0.20	0.20	0.20	0.20		
総事業費	2,087	1,965	2,029	2,161		
対前年比(%)	—	94	103	106	コストの算出方法	
事業コスト	活動指標1	42	32	35	64	市民講座 事業費/実施件数
	活動指標2	62	64	64	67	分館 事業費/6分館
	活動指標3					

※H27及びH28年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	
改善点	指摘事項 ( ) 趣味の講座が主であったが、ジュニアオーケストラの立ち上げと青少年の健全育成を目的としたバイオリン体験講座を行うなど、既存事業の継続だけでなく、まちづくりを意図した事業への進化を目指している。

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進のために必要と考える。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	b	NPOとの連携や外部人材も活用しながら市民の文化向上のために有効な取組を行っているものと考えている。また、なよろ入門として、地域課題について考えあう講座も開催しているところであるが、さらにまちづくりの推進に向けた取組みの検討が必要と考える。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	低予算で事業を推進しており、文化の向上のみならず、青少年の健全育成や地域コミュニティの活性化など、多面的な効果があり効率的に事業が展開されている。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	a	参加者から応分負担を徴収しており、公平である。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	a	多世代の参加があり、順調に事業が進められている。また、ジュニアオーケストラの創設を目指したバイオリン教室など、新たな取組を展開し、多くの参加をいただいている。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進のため活発な事業が展開されている。	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり

平成28年度事務事業評価調書

整理番号	27	枝番	5
評価担当課・係・職名・氏名	教育部 風連生涯学習担当		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	風連公民館活動の推進			
総合計画の位置づけ	有	基本目標	5	心豊かな人と文化を育むまちづくり(教育・文化・スポーツ)
	無	主要施策	1	生涯学習社会の形成
		基本事業	3	生涯学習プログラムの整備と学習への支援
		実施計画事業	3	公民館活動の推進

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	すべての市民が生涯にわたって主体的に学習し、充実した人生を送ることができるよう			
対象(何を又は誰を)	風連地域住民			
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	各公民館分館が行う地域の活性化事業に対し支援を行う			
意図(どのような成果を期待しているか)	各公民館分館員が生涯学習に取組むなかで学習の機会や充実した人生を過ごせるよう。			
事業実施主体	名寄市			
事業実施方法	直営	一部委託	全部委託	補助等 請負 その他( )
事業実施期間	始期	S47 年度	終期設定	有 (終期 年度) 無
根拠法令・条例等				

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H25	H26	H27	H28見込	目標年度 (年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 本館公民館講座	回	目標	4	4	4	6	
			実績	4	4	6		
	2 分館件数	件	目標	6	6	6	6	
			実績	5	5	5		
3		目標						
		実績						
成果指標	1 本館公民館講座	人	目標	69	65	93	110	
			実績	63	81	108		
	2 分館件数	件	目標	6	6	6	6	
			実績	5	5	5		

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H25決算	H26決算	H27決算	H28予算	平成27年度の事業費内訳	
事業費	2,223	2,016	1,309	1,526	報酬	158 千円
国道支出金					報償費	112 千円
地方債		200			旅費	0 千円
その他	113	121	101	101	需用費	380 千円
一般財源	2,110	1,695	1,208	1,425	役務費	179 千円
人件費	2,005	1,989	1,947	1,873	使用料及び賃借料	36 千円
平均給与額	6,683	6,629	6,490	6,244	負担金補助及び交付金	444 千円
担当職員数	0.30	0.30	0.30	0.30		
総事業費	4,228	4,005	3,256	3,399		
対前年比(%)	—	95	81	104	コストの算出方法	
事業コスト	活動指標1	26	30	18	20	公民館講座 事業費/実施件数
	活動指標2	232	172	107	107	分館 分館長・主事関係+交付金/5分館
	活動指標3					

※H27及びH28年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	平成23年をベースに平成27年までに各分館交付金の額を30%へ減額し交付額とした。その間に中央分館が休館となった
改善点	指摘事項 ( )

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	b	各地域の活性化のために必要と考える
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	b	各地区の連帯感を保つことに必要な手段と考える
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	平成23年から平成27年にかけて交付金の見直しを含めた事業の見直しが図られ今後の地域の動向を見極めることが必要
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	b	各地区の人口減少が進んでいることは事実として今後の状況を見極めることが必要
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	b	中央分館が休館しているが、本館事業で補っており、学習機会の提供は概ね図られている。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	活動補助金の見直しから経過年数がたっていないので、今後においても各地区の活動内容を確認しながら地域の活性化に向け取り組んでいく必要がある。	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	
C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	複数の地区が協力・融合しながら事業を展開し、賑わいづくり等の創出を狙っていけるような事業展開も必要	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり

平成28年度事務事業評価調書

整理番号	27	枝番	6
評価担当課・係・職名・氏名	智恵文公民館		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	智恵文公民館運営事業			
総合計画の位置づけ	⑦ 無	基本目標	5	心豊かな人と文化を育むまちづくり
		主要施策	1	生涯学習社会の形成
		基本事業	3	生涯学習プログラムの整備と学習意欲への支援
		実施計画事業	3	公民館活動の推進

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	地域の住民が生涯にわたって主体的に学習し、充実した人生を送ることができるよう学習機会の提供と支援を行う。			
対象(何を又は誰を)	智恵文地域住民			
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	生涯学習推進体制の整備のもと特色ある生涯学習プログラムを提供する他、補助金等での支援を行う。			
意図(どのような成果を期待しているか)	学ぶ機会と交流の場を提供することにより、心の充実と学習意欲の向上、健康維持を図る。			
事業実施主体	名寄市			
事業実施方法	⑧ 直営	一部委託	全部委託	⑨ 補助等
事業実施期間	始期	年度	終期設定	有(終期年度) ⑩ 無
根拠法令・条例等				

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

活動指標	1	事業及び支援計画の件数	単位		H25	H26	H27	H28見込	目標年度 (年度)
					目標	47	45	46	46
活動指標	1	事業及び支援計画の件数	件	目標	47	45	46	46	46
		実際に実施した事業件数(習字講座は延べ回数を計)		実績	38	36	31		
	2	分館件数	件	目標	4	4	4	4	4
		活動分館数		実績	3	3	3		
成果指標	1	事業及び支援件数		目標	490	495	545	545	450
		事業及び支援実績(事業参加延べ人数)		実績	392	403	387		
	2	分館件数		目標	4	4	4	4	
		活動分館数		実績	3	3	3		

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H25決算	H26決算	H27決算	H28予算	平成27年度の事業費内訳
事業費	483	485	490	648	公民館講座講師謝礼 25回 100千円 行事協力謝礼 4件 52千円 補助金 1件 50千円 行事参加賞 3回 48千円 分館事業 3件 187千円 他
国道支出金					
地方債					
その他					
一般財源	483	485	490		
人件費	2,005	1,989	1,947	1,873	
平均給与額	6,683	6,629	6,490	6,244	
担当職員数	0.30	0.30	0.30	0.30	
総事業費	2,488	2,474	2,437	2,521	
対前年比(%)	—	99	99	103	
事業コスト					
活動指標1	269	268	235		
活動指標2					
活動指標3					

※H27及びH28年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	智恵文地区は過疎化が市街地より進み、少子高齢化により1つの公民館分館が休止している。
改善点	指摘事項 ( ) 農村地域のため、春から秋にかけて朝から晩まで忙しい毎日が続くことから、平成27年度は農作業が始まる前に音楽に触れ心豊かな時間をという視点から初めてピアノ弾き語りコンサートを開催。

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	b	本事業は総合計画記載事業である。農村地域という地域性を考慮した実施日程、事業を計画し概ね達成はしているが、企画内容等のマンネリ化も見られるため、ニーズの把握と内容の検討が必要である。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	地域住民に学習の機会や情報を提供する場として、また地域の連帯感、健康の向上が図られている。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	予算規模が大きくないこともあり、これ以上のコスト削減をすることにより、事業の遂行や目的を果たす上で支障をきたすことが考えられる。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	b	事業実施においては、企画内容によって対象者に違いはあるが、広報ちえぶん等で全戸に開催や募集の案内をしている。しかし地区内が2つに小・中学校区が分かれていることで参加の偏りもみられる。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	a	分館事業については、少子高齢化や人口減少の影響から1部休止はしているものの概ね達成している。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	少子高齢化、人口減少が進んでいる中、農村地域の特性を考慮し、これまでの事業に工夫や内容の検討を加えて継続していく。	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	
	事業継続をする上で、内容を充実させるために住民のニーズの把握に努める。	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり